



第60回

北海道高等学校登山選手権大会

兼第65回全国高等学校登山選手権大会北海道予選会

2021年6月22日(火)・23日(水)・24日(木)・25日(金)

上ホロカメットク山～十勝岳 ・ 北鎮岳～旭岳



主 催 北海道高等学校体育連盟・北海道教育委員会・北海道山岳連盟
後 援 上富良野町 東川町 美瑛町
上富良野町教育委員会 東川町教育委員会 美瑛町教育委員会
主 管 北海道高等学校体育連盟登山専門部・北海道高等学校体育連盟旭川支部
当番校 北海道旭川北高等学校
協力校 北海道旭川東高等学校 北海道旭川西高等学校 北海道旭川工業高等学校



ご 挨 拶

北海道高等学校体育連盟会長 駒 井 博 和
(北海道札幌白石高等学校長)

令和3年度全国高等学校総合体育大会北海道予選会の開会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、夏の全国インターハイ30競技の開催が中止となり、予選会である全道大会並びに支部大会も中止せざるを得なくなっていました。このことは、インターハイを目標に3年間努力を積み重ねてきた選手の皆さんをはじめ、指導者、活動を支えてきた保護者や関係者の皆様にとって大変残念な結果でありました。

それから1年を経た現在、新型コロナウイルス感染症の感染状況は、未だ収束には至っておりませんが、新しい生活様式の中で、国・道・高体連及び各競技団体のガイドラインに則り、感染予防の対策を施しながら、こうして2年ぶりに本大会が開催できることを大変嬉しく思っております。また、各学校、競技団体、開催地の関係者各位のご尽力により、大会が開催されますことに心から感謝を申し上げます。

さて、本大会への出場を果たされた選手の皆さん、そして日頃から熱心に指導に当たられてきた指導者の皆様にお祝いを申し上げます。

今年の夏の全国インターハイは、「走れ 北信越の大地を とべ 北信越の大空へ」をスローガンに、「輝け君の汗と涙 北信越総体 2021」として、福井県、新潟県、富山県、石川県、長野県の北信越5県、及び和歌山県で開催されます。全国大会の切符をかけて本日から始まる大会においては、真摯に競技に打ち込んできた皆さんの思い、そして昨年この舞台に立つことさえもできなかった先輩たちの思い、皆さんの活動を支えてくれた家族や関係者の皆さんの思い、安全・安心な本大会の運営にご尽力いただいている関係者の皆さんの思いなど、本大会に関わるすべての人の思いを皆さんの一挙手一投足に込めプレーしてください。

また、高体連のマークを構成している三つの「K」は、「力」、「技」、「明朗な精神」を意味し、その色彩は「若人の情熱」を示しています。コロナ禍により残念なニュースが多い中、皆さんの三つの「K」と「情熱」は、間違いなく道民に明るい話題と勇気を与えてくれることになります。最後の最後まで諦めることなく、精一杯のプレーで熱戦を繰り広げてくれることを期待しています。

結びとなりますが、本大会の開催に当たり、様々なご支援をいただきました地元市町村及び教育委員会、北海道スポーツ協会、関係競技連盟、そして当番校をお引き受けいただきました高等学校の校長先生をはじめ先生方、補助生徒の皆さんに心から感謝を申し上げ、大会に当たってのご挨拶といたします。

歓 迎 の 言 葉

当番校 北海道旭川北高等学校
校 長 鈴 木 淳

第60回北海道高等学校登山選手権大会兼第65回全国高等学校登山選手権大会北海道予選会に、全道各地から予選を勝ち抜き本大会へ出場を果たした選手の皆さん、ようこそ旭川支部へ。心より歓迎いたします。2年ぶりの高体連であり、大会が行われることへの感謝や、今大会にかける皆さんの思いが伝わってくるようです。今まで積み上げてきた努力やトレーニングの成果を遺憾なく発揮し、念願のインターハイ出場に向けて、熱気ある登山競技が繰り広げられることを期待しています。

今年度の会場は、大雪山国立公園の主峰であり北海道最高峰である旭岳や北鎮岳、十勝岳連峰の主峰である十勝岳や上ホロカメットク山を舞台に開催されます。アイヌ語で「カムイミンタラ」（神々が遊ぶ庭）と呼ばれ、360度に広がる雄大な眺望と美しい自然は、登山家の憧れであり、高校山岳部の登山競技の会場としても、この上ない舞台となってくれることでしょう。

山を愛する皆さんは、一步一步歩いていけば頂上に近づくという確固とした哲学とともに、自らの汗で極めた山の頂から見る景色を知っている点で、他の高校生が持ち得ない広い世界観を有していると云えるでしょう。山は何も語らずして向き合う者に多くのことを教えてくれる存在です。他方、山は時に、人間の過信に厳しい姿を見せることもあります。安全第一を心がけ、状況を的確に判断し、確かな知識や技術を駆使して、チームワークを最大限に発揮し、皆さんで思い出に残る大会にしてくれることを願っています。

結びに、今大会の運営を支えてくださる登山専門部の皆様、各校顧問の先生方、上富良野町、東川町、美瑛町始め関係機関の皆様に心より感謝申し上げます、歓迎の言葉とします。

大 会 役 員

名 誉 大 会 長	小 野 倫 夫				
大 会 長	駒 井 博 和				
副 大 会 長	上 田 智 史 山 本 英 人 相 馬 真 吾	滝 本 玲 高 橋 望	吉 田 岳 夫 鈴 木 淳		
顧 問	斉 藤 繁 倉 本 博 史	松 岡 市 郎 堀 達 也	角 和 浩 幸		
参 与	中 澤 美 明 尾 形 友 秀	泉 野 将 司 坂 本 和 彦	北 川 伸 之 小 林 為五郎		
大 会 委 員 長	鈴 木 淳				
大 会 副 委 員 長	工 藤 昌 彦				
大 会 委 員	土 居 昌 彦 大 友 剛 靖 内 海 健 一 木 村 宣 幸 三 戸 涉 三 飯 田 一 史 相 田 敬 太 小 池 圭	矢 萩 尚 太 刀 川 健 一 細 野 護 港 哲 平 山 納 秀 俊 青 山 泰 教 佐 々 木 亮 介 鈴 木 容 佳 子	山 口 工 高 野 純 平 畑 野 和 宏 松 永 直 樹 藤 本 和 夫 蓑 本 一 哲 青 沼 宏		
安 全 対 策 委 員 長	小 野 倫 夫				
安 全 対 策 副 委 員 長	木 村 宣 幸	細 野 護			
安 全 対 策 委 員	内 海 健 一	及 川 研 一 郎			

大会実行委員

審査委員長 木村宣幸（北広島）

審査委員 【男子】

青沼 宏（市立函館）
飯田 一三（旭川東）
山下 宗紀（旭川商業）
相田 敬史（釧路湖陵）
蓑口 一哲（帯広農業）
三戸 涉（室蘭栄）

【女子】

小池 圭太（旭川工）
松永 直樹（函館ラサ）
藤本 和夫（岩見沢東）
青山 泰教（北見北斗）
港 哲平（札幌西）
藤原 浩二（有朋苫校）

隊長 【男子】

佐々木 亮介（札幌北）

【女子】

西 千秋（北星女子）

副隊長 【男子】

山納 秀俊（小樽潮陵）
畑野 和宏（遠軽）

【女子】

中條 恵（旭川東）
鈴木 容佳子（江別）

コースパイロット 細野 護（旭川北）

大野 尊（旭川北0B）

サポート 【男子】

牛久保 琢哉（旭川永嶺）
三沢 憲之介（旭川北）
藤崎 秀昭（旭川北）
川名 典道（旭川東）
瓶田 幸宏（富良野緑峰）

【女子】

山下 文孝（高体連0B）
桐尾 義之（高体連0B）
鈴木 隆一郎（旭川北）
阿部 直人（旭川北）
及川 研一郎（旭川北）
石丸 高志（旭川西）
関村 康則（旭川工）

通信 内海 健一（旭川北）
細野 護（旭川北）

及川 研一郎（旭川北）

ペーパーテスト 竹中正喜（釧路湖陵）

天気図審査 木村宣幸（北広島）
青沼 宏（市立函館）

小池 圭太（旭川工）

現地本部 内海 健一（旭川北）

渡辺 瑞恵（旭川北）

大会補助 旭川北高等学校山岳部員

大 会 事 務 局

総 務	細野 護	内海 健一	及川研一郎		
競 技	内海 健一	細野 護	三沢憲之介	藤崎 秀昭	
輸送宿泊	細野 護	鈴木隆一郎	渡辺 瑞恵	近畿日本ツーリスト	
救 護	内海 健一	及川研一郎	藤崎 秀昭	渡辺 瑞恵	
記 録	鈴木隆一郎	細野 護	内海 健一	三沢憲之介	
会 計	林 正司	細野 護	内海 健一	渡辺 瑞恵	

開会式

1. 開式宣言
2. 優勝杯返還
3. レプリカ贈呈
4. 大会長挨拶
5. 大会委員長挨拶
6. 審査委員長挨拶
7. 選手宣誓
8. 閉式宣言
- * 当番校より連絡

閉会式

1. 開式宣言
2. 成績発表
3. 優勝杯・賞状授与
4. 審査委員長講評
5. 大会委員長挨拶
6. 閉式宣言
- * 当番校より連絡

大会の審査要領

1. ペーパーテスト（登山についての基礎知識） 10点（4人の平均点）
2. 行動中テスト 5点
 （地点確認ポイントによる読図…2点）
 （隊長からの読図・自然等に関する質問…3点）
3. 審査の配点

①体力	30点	②歩行	20点
③装備	10点	④設営・撤収	5点
⑤炊事	5点	⑥気象	5点
⑦計画・記録	5点	⑧マナー	5点

研究課題 「大雪山系の高山植物」

大会日程

1日目 6月22日(火)

- 12:00 受付開始 (3階フロア 荷物も3階フロア) ~13:30まで
- 12:30 専門委員会・安全対策委員会 (2階 ザ・イーストルーム)
- 14:00 開会式 (3階 ボールルーム)
終了後、選手は荷物を各部屋へ移動
- 14:30 監督会議 (2階 ザ・イーストルーム)
- 14:45 ペーパーテスト (2階 ザ・ウエストルーム)
- 15:30 天気図審査 (2階 ザ・ウエストルーム) (録音したものを利用)
- 17:00 夕食 (3階 ボールルーム)
- 20:00 就寝

2日目 6月23日(水)

- 3:30 起床 朝食・昼食受け取り (1階フロント)
同時に、風呂道具・テント1張りを玄関前のバスに積み込み
(各パーティーごとにまとめて、指定袋に入れてバスに積み込むこと)
(全装行動しないパーティーは、メインザックもバスに積み込むこと)
- 4:30 アートホテル旭川出発
(顧問審査員等の車は、5:30までに各自で吹上温泉白銀荘に移動してください)
- 6:00 十勝岳温泉登山口着
- 6:20 上ホロカメットク山~十勝岳 登山開始
男女とも全装行動
- 9:00 上ホロカメットク山山頂着
- 11:00 十勝岳山頂・昼食
- 13:00 十勝岳避難小屋
- 14:20 吹上温泉保養センター白銀荘着
- 14:30 幕営審査 (女子は15:00)
- 15:30 炊事審査
- 20:00 就寝

荒天対策
上富良野岳往復

3日目 6月24日(木)

- 3:30 起床 朝食・昼食受け取り (白銀荘玄関)
- 4:30 吹上温泉保養センター白銀荘出発 (バス乗車)
- 6:00 旭岳登山口登山開始
男子・女子ともにサブザック行動
- 8:00 旭岳ロープウェー姿見駅
- 10:00 中岳分岐
- 11:00 北鎮岳山頂着・昼食
- 13:00 旭岳山頂
- 14:30 旭岳ロープウェー姿見駅着乗車
- 15:00 登山口着 バス乗車
- 16:30 入浴・夕食受け取り
- 21:00 就寝

荒天対策
姿見駅往復等

4日目 6月25日(金)

- 5:00 起床
- 6:00 朝食受け取り (白銀荘玄関)
- 7:00 審査委員会 (吹上温泉保養センター白銀荘)
- 9:00 テント撤収終了
- 9:30 閉会式 (吹上温泉保養センター白銀荘前キャンプ場)
- 9:50 解散

コース概況1 上ホロカメットク山～十勝岳

上ホロカメットク山(通称 上ホロ)は夏冬通じて登られている。頂上直下には中央壁と呼ばれる絶壁が続き、ハツ手岩や化物岩とともに冬期登攀のルートとなっている。12月初旬には多くの登山者が冬山訓練や登攀に訪れる。

上ホロカメットク山の山名の語源については諸説ある。「上富良野町百年史」には、「上ホロカメットク山はペナクシ・ホル・カ・メツ・ヌブリ「十勝川・空知川本流の川上にある・後戻り川の・峰(十勝連峰)の端(深山)の・山」となる。これと対をなす、ペナクシ(下)ホロカメットク山は、曲流している十勝川本流の川下(南富良野・新得町界)に所在している。空知川の水源も北から曲流しているが、石狩側には山名の伝承がなく、十勝側から望んだ山名であろうと思われる。」と記されている。十勝岳の山名はトカプチ(十勝川)の水源であることに由来する。

上ホロカメットク山(1920m)の登山は十勝岳温泉(およそ標高1270m)からはじまる。灌木が混じるハイマツの中での遊歩道を進む。ハイマツが尽きると道はヌッカクシ富良野川に降りる。川といっても普段は水が枯れている。ヌッカクシ富良野川の源頭は多くの噴気孔を持つ安政火口である。この地名は北海道を探索した松浦武史郎が安政4年に十勝岳が噴火しているのを目撃したことにちなんで名付けられた。(当時に現在の安政火口が噴火していたわけではない)

ヌッカクシ富良野川を渡ると登山道は南西方向にトラバースしながらD尾根へ登る。浅い沢地を渡ると富良野岳との上ホロ分岐である。笹の生えた沢形をそのまま進むとハイマツ原となり、階段の急斜面を登る。D尾根の上部は、砂礫と背の低いハイマツの尾根であり、イワブクロ・エゾイソツツジなどの花を楽しむことができるだろう。眼下に爆裂火口である安政火口、西に富良野岳の勇姿を見ながらの登山となる。ハツ手岩を過ぎて最後の急登を登ると看板のある上富良野岳(1893m)である。イワヒゲ・ミネズオウ・メアカンキンバイなどの背の低い花畑の斜面を下り、急斜面を50mほど登り返すと上ホロカメットク山(1920m)である。ここからの十勝岳の眺めはすばらしい。90mほど下ると上ホロカメットク山避難小屋である。ここからは小さなアップダウンを繰り返しながら十勝岳(2077m)を目指す。十勝岳が近づくにつれて登山道は火山礫で歩きにくくなる。全装行動では最もきつい登りとなるだろう。十勝岳山頂からは美瑛岳の向こうにオプタテシケ山を望むことができる。また、上ホロカメットク山から南に続く稜線の先には三角形の下ホロカメットク山を望むことができる。下ホロカメットク山には登山道がなく、積雪期に登るのが一般的だ。日帰りは難しく、読図や生活技術を含む総合的能力が試される探検的な登山となる。君たちにも、実力をつけて挑戦して欲しい。

十勝岳の下りはグラウンド火口とすり鉢火口間の砂礫の稜線をすすむ。風向きによっては62-Ⅱ火口や大正火口などからの火山ガスが届くので注意が必要だ。1926年の十勝岳噴火に伴う泥流はグラウンド火口で起きた水蒸気爆発が原因である。標高1320mには十勝岳避難小屋があり、少し下ると雲ノ平分岐で美瑛岳への登山道が分かれている。登山道は泥流のあとに沿って続いている。泥流で破壊された植生は、現在ではエゾイソツツジやシラタマノキなどが見られるまでに回復しており、遷移の進行を目の当たりにすることができる。

白銀荘分岐を左にいき、さら分岐を左に進むと背の高いハイマツのトンネルが現れ、まるでトロの森に迷い込んだような錯覚に陥る。九条武子歌碑を過ぎ、富良野川を渡渉するとまもなくで吹上温泉キャンプ場である。



コース概況2 北鎮岳～旭岳

旭岳温泉登山口は旭岳ロープウェー駅の右手にあり、小さな沢を渡ってエゾノリュウキンカやミズバショウの咲き乱れる木道へと続く。針葉樹林帯の中をゆくが、根曲り竹に覆われたところもあり、視界は効かない。30分ほど行くと視界が開け、アカエゾマツに囲まれた第1天女ヶ原である。この湿原には、ミズバショウ、ワタスゲ、タチギボウシ、エゾオヤマリンドウ、ナガバノモウセンゴケなど季節によって様々な植物が見られる。ほとんどの登山者がロープウェーを利用するため静かな環境ではあるが、木道の腐敗が激しく整備が待たれるところである。

再び樹林帯となり、姿見川を2回渡ると第2天女ヶ原である。飛び石で沢を渡ると傾斜のある登りとなってダケカンバの林となる。さらに高度が上がるとハイマツが多くなり、タカネナナカマドが群生する盤の沢が右手に続く。このあたりの紅葉は見事である。4合目あたりからは階段が整備され、シラタマノキ、アカモノ、チングルマ、ツガザクラ類、ツツジ類などの高山植物が現れる。

分岐点は右に行くと姿見の池で、左に行くとロープウェー姿見駅である。姿見駅からは夫婦沼を通り地獄川を渡って旭岳を右手に見ながらトラバースして裾合平へと続く。夫婦沼周辺から見る旭岳の景観は素晴らしく、噴煙を上げる地獄谷とともに絶好の景勝ポイントとなっている。また、融雪とともにキバナシャクナゲ・チングルマ・エゾコザクラ・エゾノツガザクラ・アオノツガザクラ・ミネズオウ・コケモモ・ジムカデ・イワヒゲ・メアカンキンバイ・ミヤマキンバイ・イワウメ・ミヤマリンドウ・イワギキョウ・イワブクロ・ガンコウラン・ウコンツツジ・コガネギク・エゾイソツツジ・ヒメイソツツジ・ミツバオウレン・ウラジロタデ・ミヤマクロスゲ等の高山植物が一带に咲き乱れる。大方の花が咲き終わった8月にはエゾオヤマリンドウの群生が沢筋に見られる。

1724mの尾根まで登ると姿見の池方面は見えなくなり、裾合分岐までは小さなアップダウンを繰り返して下っていく。途中振り向くと、旭岳斜面に「白鳥の雪渓」が見ることができのかもしれない。北鎮岳の「白鳥・千鳥の雪渓」ほど有名ではないが、大きく羽ばたく姿は壮観である。裾合分岐を直進すれば、当麻乗越から沼ノ平を経由して愛山溪温泉と至る登山道で、ここを右に折れて東に進み中岳温泉へと向かう。

この一帯は右手が旭岳～熊ヶ岳の稜線、左手は当麻岳～安足間岳の稜線に囲まれた広大なお花畑である。また、当麻岳の方面は小塚・大塚など奇岩も多く見られる。一番はチングルマの群生で、エゾノツガザクラ・アオノツガザクラ・ハクサンボウフウ・エゾコザクラ・コバイケイソウなどさまざまな花が咲き乱れる。また、秋には一面がチングルマとウラジロナナカマドの赤に染まる。旭岳と熊ヶ岳のコルから流れる月ノ川を渡ると、中岳の山腹が近づき、登山道は深い溪谷の中に入っていく。



渓谷を流れる沢はピウケナイ川の源流で、硫黄分を含んだ白っぽい水質で、この渓谷の奥、登山道上に中岳温泉がある。施設は何もなく、浴槽はそばにおいてあるスコップで土砂をかき出して自ら作成し、沢水の量で湯加減を調節する大自然の秘湯である。また、遅くまで雪渓が残るため、盛夏にエゾノリュウキンカが咲き誇る。

温泉からは、ジグを切って北側の尾根に取り付き、ハイマツの尾根上に出て振り向くと裾合平が眼下に広がる。徐々に岩れきや砂れき地となるが、ウラシマツツジやイワヒゲ、エゾイワツメクサが群生していたりといったところに高山植物が見られる。

緩い登りを登り切ると正面に御鉢平、その奥に北海岳(2149m)を望む中岳分岐である。分岐を左に進むと中岳、北鎮岳と続く御鉢平の稜線で、裸地に見える地面だが、コマクサやエゾタカネスミレなども結構見ることができる。平坦な中岳を過ぎるとまもなく北鎮分岐である。そのまま御鉢平の稜線を東に進むとこの方向からは台地に見える黒岳(1984m)である。

最後は100m程度の火山れきの北斜面を登り切ると、北海道第2の高峰、北鎮岳(2244m)である。展望も素晴らしく、北西方向に目を向けると鋸岳から比布岳・愛別岳、安足間岳から当麻岳の稜線、その左には裾合平が広がり、西には凌雲岳から桂月岳・黒岳、御鉢平を巡る左から北海岳・松田岳・荒井岳・間宮岳、また北海岳の奥には、北海道第3の白雲岳(2230m)が聳える。

北鎮岳からは、来た道を辿り、中岳分岐は直進して緩い登りを間宮分岐に向かう。チシマクモマグサやクモマユキノシタ、ミヤマキンバイなどが見られる。間宮分岐を右に折れて御鉢平に別れを告げ、右手に登山道のない荒々しい熊ヶ岳を見ながら、旭岳と裏旭岳の科尔へと向かう。

このあたりは裏旭キャンプ指定地で、風よけのための石が積まれている。水は旭岳東斜面の雪渓から取れるがトイレはない。最低科尔からは標高差200m強の辛い登りが待っている。雪渓が多く残り、あとは砂れき地で滑りやすく滑落到ち十分注意して慎重に登る。

ヒメイワタデやミヤマキンバイなどの高山植物が出迎えを受けると、北海道最高峰旭岳(2291m)である。山頂は意外と広く、天気によければ360度パノラマである。十勝連峰からトムラウシ山はもちろん、日高山脈、東大雪、北大雪、道東の山並みも見ることができる。

旭岳からの下りは、火山れき斜面で足元に注意しながら下る。下りはじめてすぐ金庫岩が近づき、その奥に噴煙を上げる地獄谷を望む。ニセ金庫岩に突き当たると、岩を巻かず右に折れて下っていく。植物は少なくガレ場と岩場が続くが、右手には地獄谷、左手にはトムラウシから十勝連峰の山並みが連なり、その奥には芦別岳の夕張山地も望まれる。眼下には姿見の池や広大な散策路が広がり爽快である。



(白雲岳から)

大会参加校数一覽

支部名	全道大会						支部大会			
	参加校数			参加者数			参加校数	参加者数		
	男	女	計	男	女	計	合計	男	女	計
札幌	3	3	6	12	12	24	8	62	25	87
室蘭	1	2	3	4	8	12	2	30	11	41
小樽										
南空知										
旭川	3	3	6	12	12	24	5	57	18	75
北見	1	1	2	4	4	8	2	32	12	44
十勝	2	1	3	8	4	12	4	41	13	54
釧根	1	1	2	4	4	8	3	22	4	26
函館	1	1	2	4	4	8	4	25	14	39
計	12	12	24	48	48	96	28	269	97	366

先輩の踏み跡

全国大会優秀校

回	期 日	会 場	当番高校	優勝校(男)	優勝校(女)
1	1962.7.10～7.12	大雪山系	旭川東	芦 別	旭川東
2	1963.6.29～7. 1	大雪山系	上 川	札幌南 苫小牧東	芦 別
3	1964.7. 2～7. 4	ニセコ連峰	倶知安	旭川東 小樽千秋	旭川東
4	1965.7. 2～7. 4	富良野岳・十勝岳	富良野	増 毛 遠 軽	旭川東
5	1966.6.24～6.26	十勝岳・美瑛岳 美瑛富士	美 瑛	旭川東 増 毛	旭川東
6	1967.6.22～6.24	樽前山・風不死岳 恵庭岳	苫小牧東	旭川東 北見柏陽	旭川東
7	1968.7. 4～7. 5	ウペペサンケ	帯広三条	旭川東 芦 別	旭川東
8	1969.7. 3～7. 5	芦別岳・富良野西岳	芦 別	芦 別 帯広柏葉	芦 別
9	1970.7. 2～7. 4	横津岳・駒ヶ岳	遺愛女子 函館西	標 茶 帯広農業	遺愛女子
10	1971.7. 1～7. 3	大雪山系	旭川商業	芦別工業 旭川東	芽 室
11	1972.6.29～7. 1	知床山系	北見柏陽	旭川東 北見北斗	標茶農業
12	1973.6.28～6.30	十勝連峰	旭川東	深川西 函館有斗	旭川東
13	1974.7. 4～7. 6	天狗岳・余市岳	北海道工業	函館有斗 増 毛	芽 室
14	1975.6.26～6.28	羅臼岳・羅臼湖	標茶農業	標茶農業 増 毛	標茶農業
15	1976.6.23～6.25	夕張岳(日陰の沢)	美唄工業	美唄工業 小樽工業	標茶農業
16	1977.6.22～6.24	天塩岳	士 別	旭川東 北見北斗	標茶農業
17	1978.6.28～6.30	大千軒岳	函館有斗 函館白百合 函館ラ・サール	標茶農業 小樽工業	函館白百合
18	1979.6.28～6.30	室蘭岳・カムイヌプリ	室蘭工業	八 雲 旭川東	函館白百合
19	1980.6.26～6.28	ニセコ連峰	小樽工業	北見北斗	北見北斗
20	1981.6.25～6.27	空沼岳・札幌岳	札幌慈恵	富良野工業 北見北斗	函館白百合
21	1982.6.23～6.25	夕張岳	夕張工業	檜山北	旭川商業
22	1983.6.23～6.25	暑寒別岳・雨竜沼	砂川南	富良野工業 八 雲	北見北斗
23	1984.6.21～6.23	富良野岳・芦別岳	富良野工業	帯広柏葉	北見北斗
24	1985.6.20～6.22	斜里岳・羅臼岳	網走南ヶ丘	東 川 網走南ヶ丘	網走南ヶ丘
25	1986.6.26～6.28	雄阿寒岳・雌阿寒岳 阿寒富士	標 茶	北見北斗	標 茶
26	1987.6.17～6.20	羊蹄山・アンヌプリ チセヌプリ・目国内岳	札幌新陽	小樽工業 北見北斗	旭川東栄
27	1988.6.23～6.25	ウペペサンケ山・ニベソツ山	帯広柏葉	小樽工業	旭川東栄
28	1989.6.22～6.24	駒ヶ岳・狩場山	函館中部 檜山北 遺愛女子	富良野工業 小樽工業	旭川東栄
29	1990.6.21～6.23	幌尻岳・トッパベツ岳	苫小牧東 静 内	小樽工業	旭川東栄
30	1991.6.20～6.22	羊蹄山・目国内岳・雷電山	倶知安	小樽工業 札幌稲西	江 別
31	1992.6.18～6.20	富良野岳・芦別岳	富良野	小樽工業	江 別
32	1993.6.23～6.25	夕張岳	夕張緑ヶ丘実業	旭川東 富良野工業	旭川東
33	1994.6.23～6.25	硫黄山・羅臼岳	北見北斗	旭川東	旭川東
34	1995.6.21～6.23	余市岳・無意根山	札幌稲西	旭川東 富良野工業	札幌南
35	1996.6.27～6.29	沼ノ原・トムラウシ山	帯広農業	札幌南	江 別
36	1997.6.19～6.21	恵山・海向山 白水岳～遊楽部岳	函館東 檜山北 函館ラ・サール	札幌南 札幌工業	北見北斗
37	1998.6.24～6.26	アポイ岳・ドソナップ岳	静 内	旭川東	北見北斗
38	1999.6.17～6.19	十勝連峰	富良野緑峰	札幌南 旭川東	北見北斗
39	2000.6.21～6.23	斜里岳・雄阿寒岳	釧路湖陵	札幌南	北見北斗
40	2001.6.20～6.22	羊蹄山・ニセコ山系	小樽湖陵	札幌南 札幌工業	旭川東
41	2002.6.26～6.28	美唄山・樺戸山地	美唄工業	札幌工業	北見北斗
42	2003.6.25～6.27	知床硫黄山・羅臼岳	北見北斗	北見北斗 札幌南	札幌南
43	2004.6.23～6.25	十勝幌尻岳・伏美岳 ビバロ岳	帯広農業	江 別	北見北斗
44	2005.6.22～6.24	無意根山・羊蹄山	札幌南	札幌南 江 別	八 雲
45	2006.6.21～6.23	白水岳・狩場山	函館ラ・サール	札幌南	八 雲
46	2007.6.20～6.22	ペンケヌーシ岳 チロロ岳	静 内	札幌南 北見北斗	北見北斗
47	2008.6.25～6.27	美瑛岳・旭岳	旭川東	旭川東	北見北斗
48	2009.6.24～6.26	斜里岳・雄阿寒岳	釧路湖陵	旭川東 札幌北	旭川東
49	2010.6.23～6.25	神威岳・烏帽子岳 札幌岳・空沼岳	札幌稲西	札幌北	旭川東
50	2011.6.21～6.24	岩内岳～目国内岳 羊蹄山	小樽桜陽	札幌北	旭川東
51	2012.6.26～6.29	ピンネシリ 南暑寒岳～暑寒別岳	岩見沢東	札幌北	北星学園女子
52	2013.6.25～6.28	斜里岳 羅臼岳	遠軽(協力校:北見北斗)	北見北斗	旭川東
53	2014.6.24～6.27	ウペペサンケ山・ニベソツ山	帯広柏葉	帯広柏葉	帯広柏葉
54	2015.6.23～6.26	風不死岳 樽前山 羊蹄山	札幌西	旭川東	旭川東
55	2016.6.21～6.24	長万部岳 狩場山	遺愛女子	旭川東	旭川東
56	2017.6.20～6.23	カムイヌプリ～室蘭岳 米馬岳～オロフレ山	室蘭栄	釧路湖陵	旭川東
57	2018.6.26～6.29	上ホロカメツク山～十勝岳 オブタテシケ山	旭川北	旭川東	釧路湖陵
58	2019.6.25～6.28	雄阿寒岳 雌阿寒岳	釧路北陽	帯広柏葉	釧路湖陵
59	中 止	(札幌岳、岩内岳・目国内岳・白樺山)	(北広島)		
60	2021.6.22～6.25	上ホロカメツク山～十勝岳 北嶺岳～旭岳	旭川北		

祝

第60回 北海道高等学校登山選手権大会
兼
第65回全国高等学校登山選手権大会北海道予選会

2021年6月22日～25日
上ホロカメットク山～十勝岳・北鎮岳～旭岳



北海道・山・店 秀岳荘

<http://www.shugakuso.com>